

## ウナギ産卵生態調査

### 3. ウナギ親魚の形態的特徴と年齢

望岡典隆・脇谷量子郎（九大院農）

青山 潤・渡邊 俊・塚本勝巳（東大海洋研）

黒木洋明・張 成年（水研セ中央水研）

【目的】2009年6月、西マリアナ海嶺南部海域において捕獲されたウナギ親魚の形態的特徴、年齢ほかを明らかにする。

【材料と方法】水産庁調査船開洋丸平成21年度第2次航海によって捕獲されたウナギ7個体および北海道区水産研究所調査船北光丸によって捕獲された1個体、計8個体（雄4個体、雌4個体）のウナギ (*Anguilla japonica*) 親魚について、体各部を測定し、耳石（扁平石）を用いて年齢を推定した。

【結果】雄4個体の全長と体重はそれぞれ44.7～63.9cmと83～187g、雌4個体の全長と体重はそれぞれ57.4～76.7cmと120～406gであった。体は雌雄ともに背部も腹部も黒褐色で、汽水域の下りウナギにみられるようないぶし銀様の光沢は認められなかった。銀化の程度を示すEye indexは、雄は5.7～6.9(平均6.51)、雌は5.3～7.0(平均5.87)で、汽水域の下りウナギよりも大きい傾向がみられた。胸鰭長/全長比(%)は雄:4.6～5.4、雌:3.8～4.7で、汽水域の下りウナギがもつ範囲にあった。一方、背鰭前部高/全長比(%)は雄:0.8～1.0、雌:0.8～0.9、臀鰭前部高/全長比(%)は雄:0.9～1.1、雌:0.6～1.4で、産卵場の親魚は汽水域の下りウナギよりも垂直鰭の前部が低くなっていることが明らかになった。耳石による年齢査定から、雄個体は5～10才、雌は6～10才と推定された。総脊椎骨数は113～117であった。